



森教郎教授近影

## 森教郎教授定年退職記念号によせて

経済学部長 大庭清司

森教郎教授は、本年3月に定年を迎えられ、名城大学を退職されることになりました。長年にわたる名城大学商学部とそれにつづく経済学部にたいする先生の貢献に感謝の意を表する次第です。

先生は、1963年に大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程を満期退学した後、日本貿易振興会大阪本部調査部嘱託、八幡大学法経学部講師・助教授を経て、1967年4月に名城大学商学部に着任されました。以後39年間にわたって、本学の研究教育の発展に寄与されました。その間、学部では国際経済論、大学院経済学研究科では国際経済論特論を担当され、多くの人材を育てられました。

研究面では、「旧社会主義諸国のあまりにも犠牲の大きかった経験に照らして、マルクス経済学としては、従来、全面否定してきた市場経済システムのプラスの側面に光を当てていく」ことを課題とし、また「先進国企業の対途上国進出について、帝国主義的侵略という道筋ではなく、帝国主義世界体制の崩壊段階における企業進出問題として、理論を組み立てなおす」こと（名城商学会会報139号「出口勇蔵先生との往復書簡」）に力を注いで来られました。

教育面では、とくにゼミ指導に熱心で、日本学生経済ゼミナール（略称インゼミ）へ学生を積極的に参加させています。学生は、他校の学生達と討論することによって触発され、また見識や視野を広げる貴重な経験をえています。

先生は、大学行政面でも、名城大学の発展のために尽力されました。2000年4月から3年間協議員を勤められ、また2000年度に大学院経済学研究科主任教授、名城大学総合研究所運営委員、2001年度に名城大学75周年記念学術事業実行委員、2003年から名城大学自己点検・評価委員（2年間）などを歴任されました。現在は、アジア研究所の立上げに注力していらっしゃいます。

このような先生の研究、教育、行政に対する長年のご苦勞とご功績に心から感謝し、ここに定年退職記念号を刊行し、先生に捧げたいと思います。今後は健康に留意されて、これまで以上に活躍されることをお祈りし、定年退職記念号によせる言葉といたします。